

高等学校音楽 I 学習指導案

指導者 酒寄 康典

1 題材名 リズムアンサンブルづくり

2 目標

言葉の特徴を生かしてつくったリズムを基に、構成や全体のまとまりを工夫してリズムアンサンブルをつくる。

3 題材設定の理由

創作の特徴は、実際に音を組み合わせ、音楽をつくりだすところにある。高等学校における創作は、このような創作の特徴を生かして、音楽体験を豊かにし、表現しようとする意欲を育てるとともに、創造的な表現の能力を伸ばすことをねらいとしている。

これまで、旋律をつくり、その旋律に簡単な伴奏を付けたオルゴール製作の創作活動を実践してきた。しかし、その活動の過程において音楽理論や技法などの学習に生徒が行き詰まることが多く、曲を完成させることが目標になってしまうことが度々あった。その結果、生徒が創作する楽しさや喜びを味わうことができず、むしろ創作に対する意欲がなくなっていく実態があった。

本校では、第1学年の1学期に「クラッピング・カルテット第1番（長谷川匡俊作曲）」という、手拍子のみで構成されている楽曲を使ってグループ学習を行っている。「音がうまく取れない」とか「和声進行がよくわからない」ということもなく、生徒たちは大変意欲的に表現することができる。高等学校学習指導要領解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編（平成21年12月 文部科学省）（以下、高等学校学習指導要領解説と表す）の音楽IのA表現（3）創作に「イ 音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成を工夫して、イメージをもって音楽をつくること。」とあり、創作においては構成を工夫し、音楽の全体的な統一感を大切しながら、表現したい音楽のイメージを膨らませてつくることが示されている。そこで、音楽を形づくっている要素の一つである「リズム」に重点を置き、楽曲の構成を工夫して、自分のイメージをもってリズムアンサンブルを創作する活動を通して、創造的な表現の能力を伸ばし、さらには創作する楽しさや喜びを味わうことができると考え、本題材を設定した。

4 教材

- ・「クラッピング・カルテット第1番」（長谷川匡俊作曲）
- ・「野菜の気持ち」（古谷哲也作曲）

5 題材の評価規準

| 音楽への関心・意欲・態度 | 音楽表現の創意工夫 | 音楽表現の技能 |
|--|---|--|
| ① 言葉の特徴（抑揚、リズム）、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりに関心を持ち、イメージをもって音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 | ① 音楽を形づくっている要素（リズム、速度、テクスチュア、強弱、形式、構成など）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。 ② 言葉の特徴を生かして、反復、 | ① 言葉の特徴、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを生かした音楽表現をするために必要な音の組合せ方、記譜の仕方などの創作の技能を身に付けてリズムアンサンブルをつくっている。 |

| | | |
|--|--|--|
| | <p>変化, 対照などの構成や全体のまとまりを考え, 表現したい音楽をイメージして音楽表現を工夫し, どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。</p> | |
|--|--|--|

6 指導と評価の計画 (8時間扱い)

| 時間 | ◆ねらい ○学習内容・活動 | 評価規準 評価方法 |
|-------------|---|---|
| 1 ・ 2 | <p>◆言葉 (抑揚, リズム) の特徴を感じ取って言葉をリズムに置き換える。</p> <p>○「夏の思い出」という題で感想文を書く。</p> <p>○その感想文の中から, 抑揚などが特徴的な言葉を一つ取り上げる。</p> <p>(例) サッカー, バーベキュー, 花火 など</p> <p>○グループに分かれ (4~5人ずつ), 自分の選んだ言葉の抑揚を生かし, リズムに置き換える。</p> | <p>《音楽への関心・意欲・態度①》 〈観察〉</p> <p>《音楽表現の創意工夫①》 〈ワークシート〉【資料1】</p> |
| | <p>◆表現したいイメージをもち, それぞれの言葉 (抑揚, リズム) の特徴を感じ取って, 1~2小節のテーマを創作する。</p> <p>○「クラッピング・カルテット第1番」の復習をする。</p> <p>[形式] A (提示部) B (展開部) A' (再現部) の三部形式</p> <p>[拍子] 4分の4拍子</p> <p>[強弱] p, mp, mf, f, ff, creac.</p> <p>subit, poco a poco, dim, > (アクセント)</p> <p>[テクスチャ] 主要テーマと伴奏リズムとのかかわり, パートの増減</p> <p>[構成] 反復, 変化, 対照</p> <p>○4つのリズムを素材とし, 1~2小節のテーマを考える。</p> <p>その際, 目立たせるリズムと伴奏にするリズムに分ける。</p> <p>※5人のグループは1つのリズムはB (展開部) で使う</p> | <p>《音楽表現の創意工夫①》 〈観察〉 〈ワークシート〉</p> |
| 3 (本時) | | |
| 4 ・ 5 | <p>◆音楽を形づくっている要素を知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら, 音の組合せ方, 記譜の仕方などの技能を身につけ, 表現したいイメージをもって構成を工夫し, リズムアンサンブルをつくる。</p> | |

- ・ ○A (提示部) 4小節分をつくる
- 6 ア) テーマが1小節分
- ・ 1, 2, 4小節に同じテーマを入れ, 3小節目だけテーマを
- 7 変化させる

| | | | |
|-----|-----|----|-----|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| テーマ | テーマ | 変化 | テーマ |

イ) テーマが2小節分

2小節目と4小節目を同じリズムを入れ, 3小節目だけテーマを変化させる

| | | | |
|------|------|----|------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| テーマ | | 変化 | [斜線] |
| [斜線] | [斜線] | | |

※【資料2】のヒントカードを参考にする

○B (展開部) 4小節分をつくる

A (提示部) とは対照的な場面にする。

※5人のグループは1つのリズムはB (展開部) で使う

※【資料3】のヒントカードを参考にする

○A' (再現部) 4小節分をつくる

1, 2小節目に提示部と同じテーマを入れ, 3, 4小節目を終わる感じが出るように工夫する。

※【資料4】のヒントカードを参考にする。

《音楽への関心・意欲・態度①》
〈観察〉

《音楽表現の創意工夫②》
〈楽譜〉

《音楽表現の技能①》
〈楽譜〉

◆創作したリズムアンサンブルを発表し, それぞれの作品のよさを味わう。

○作品発表会を開き, 各グループのリズムアンサンブルを発表し合う。

- 8 ・言葉 (抑揚, リズム) の特徴やどのように表現したいかを紹介してから発表し, そのよさなどを共有する。

○学習の振り返り・自己評価

《音楽への関心・意欲・態度①》
〈発表〉
〈学習ノート〉

7 本時の指導

a 目標

言葉（抑揚，リズム）の特徴を感じ取って，表現したいイメージをもって1～2小節のテーマを創作する。

b 展開

| 学習活動と内容 | 指導上の留意点 (◆評価) |
|--|---|
| <p>1. 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>4つのリズムを素材とし，1～2小節のテーマをつくろう。</p> </div> <p>2. 楽曲のつくりについて話し合う。 「クラッピング・カルテット第1番」 [形式] A（提示部）B（展開部）A'（再現部）の三部形式 [拍子] 4分の4拍子 [強弱] p, m p, m f, f, f f, creac. subit, poco a poco, dim, >（アクセント） [テクスチャ] 主要テーマと伴奏リズムとのかかわり，パートの増減 [構成] 反復，変化，対照</p> <p>3. テーマをつくる。 ・どのような雰囲気テーマにしたいか，イメージをワークシートに記入する。 ・目立たせるリズムと伴奏にするリズムに分ける。</p> <p>4. 本時の学習のまとめをする。 ・自己評価をする。</p> | <p>○楽譜から読み取ったことを項目ごとに板書し，生み出す特質や効果，雰囲気について話し合う際の手立てとする。</p> <p>○表現したいイメージをテーマにしていく際に，音楽を形づくっていく要素や要素同士のかかわりあいによる効果に気付くよう，即興的に音を出しながら創作するようにする。</p> <p>○目立たせるリズムと伴奏にするリズムに分けるように伝えることで，各パートのバランスやかわりあいを考えることができるようにする。</p> <p>○5人のグループでは，リズムが1つ余ってしまうが，それはB（展開部）で使うように指示する。</p> <p>○記譜の仕方が困難な生徒には，適宜アドバイスをする。</p> <p>◆音楽を形づくっている要素（リズム，速度，テクスチャ，強弱，形式，構成など）を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。（観察）（ワークシート）</p> |

【資料1】

ワークシート I

| | | |
|--------|-----|-----|
| メンバー (|) (|) (|
| (|) (|) |

○各自の夏休みの思い出から特徴的な言葉を選び出そう。
 また、その選んだ言葉をもとに、言葉の抑揚を生かしたリズムをつくろう。

| 選んだ言葉 | 言葉の抑揚を生かしたリズム |
|------------|---------------|
| 『 キャンプ 』 | ♪ |
| 『 バーベキュー 』 | ♪♪♪ |
| 『 花火 』 | ♪♪ |
| 『 富士山 』 | ♪♪♪ |

※魚釣り B:展開部で登場させる。

○テーマをつくろう

- 【条件】
- ・ 1～2小節でつくる
 - ・ 4分の4拍子
 - ・ 4パート構成

- 【ヒント】
- ◎ 主役となるリズム、伴奏とするリズムに分けて考えてみよう。
 - ◎ 繰り返しの要素を生かして考えてみよう。

♪どのようなイメージのテーマにするかを、グループで話し合おう。
 (曲全体のイメージ) キャンプ → バーベキュー → 花火 → 夜の涼れをとり、楽しい雰囲気をつくった。
 (テーマのイメージ) キャンプをする場所(富士山)は伴奏にして、他の3つのリズムを順番に使い、さかさかせるようにした。

① キャンプ

② バーベキュー

③ 花火

④ 富士山

【資料2】

【A：提示部】を作るヒント

◎提示部とは・・・これから始まる曲において、中心となるテーマを示す場面

つくったテーマを基にして、以下の要領で提示部を完成させよう。

○テーマが1小節のグループ

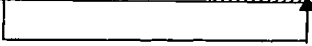
1, 2, 4小節に同じテーマを入れ, 3小節目だけテーマを変化させる

| | | | |
|-----|-----|----|-----|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| テーマ | テーマ | 変化 | テーマ |

○テーマが2小節分

2小節目と4小節目を同じリズムを入れ, 3小節目だけテーマを変化させる

| | | | |
|-----|----|----|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| テーマ | | 変化 | 変化 |
| | 変化 | | |



【B：展開部】を作るヒント

◎展開部とは・・・A：提示部と対比した、新しい雰囲気の場面

♪以下のことを参考に、自分たちのイメージを表現できる要素を選んで構成してみよう。また、それぞれの要素を用いることで、どのような音楽的效果が期待できるのか、実際に演奏して感じながらつくってみよう。

①新たな素材（リズム）の追加

②主役と脇役の交換

③“問いと答え”

④強弱記号や速度記号などを工夫する。(教科書P.136 参照)

⑤演奏するパートをだんだん増やしたり、減らしたりしてみる。

⑥演奏するタイミングを一致させたり、ずらしたりしてみる。

⑦休符を活用しよう

⑧反復の仕方を工夫する

など、他にも自分たちで工夫して、表現したいイメージを音楽にしていこう。

【資料4】

【A'：再現部】を作るヒント

◎再現部とは・・・提示部が再び現れることによって、曲全体の統一感が出る。また、曲の終結部でもある。

◆まず、再現部の1，2小節目は、提示部と同じテーマをもってくる

◆残りの小節は、どのように曲を閉じるか考えながら、構成や強弱を工夫して作成しよう。

※3，4小節目は提示部と全く同じにせず、終わる感じを出そう

(例1)「クラッピング・カルテット第1番」より

The image shows two systems of musical notation. The first system consists of three staves with various rhythmic patterns and dynamics such as *f*, *mf*, and *mp*. It includes rehearsal marks M, N, and O. The second system also consists of three staves, featuring dynamics like *p* and *sub. ff*, and includes rehearsal mark Q.

(例2)「野菜の気持ち」より

The image shows a short musical phrase across three staves. The first staff has a few notes, the second staff has a few notes, and the third staff has a few notes, including a fermata over the final note.

実際に(例)を演奏して、それぞれの終わり方の特徴を感じ取ってみよう。

【生徒の作品】

A (提示部)

- 富士山をベースにして、和楽器の音響を花火と一日の流れを順番に表現してみた。
- 全てのパートを繰り返して(反復)のリズムを印象付けた。
- 提示部ではクレンド、フォルテンドで盛り上がりをつけてみた。

B (展開部)

- con brio (生き生きと)を伴って一日の楽しさを表現した。
- 展開部は和楽器のリズムを活用して楽しさを表現した。
- 2つのリズムに合わせた斜線を組み合わせた。
- 最後は全員で。

A' (再現部)

- 少しおどろおどろ音響を基として展開部の盛り上げを落着かせて、意外さを出してみた。
- 最後はスービト+フォルテで力強く終わらせてみた。

• 休憩を全員に入れたことで、終わりのリズムと page.1 を交代してみた。

※今回の作品はすべて楽譜作成ソフトで楽譜にし、生徒に配布した。